

平成28年度 文教委員会資料②

【所管事務の調査（報告）】

かわさきパラムーブメント推進ビジョンについて

- 資料1 かわさきパラムーブメント推進ビジョンの概要について
- 資料2 かわさきパラムーブメント推進ビジョン
- 資料3 「かわさきパラムーブメント推進ビジョン案」に関する意見募集の実施結果について

市 民 文 化 局

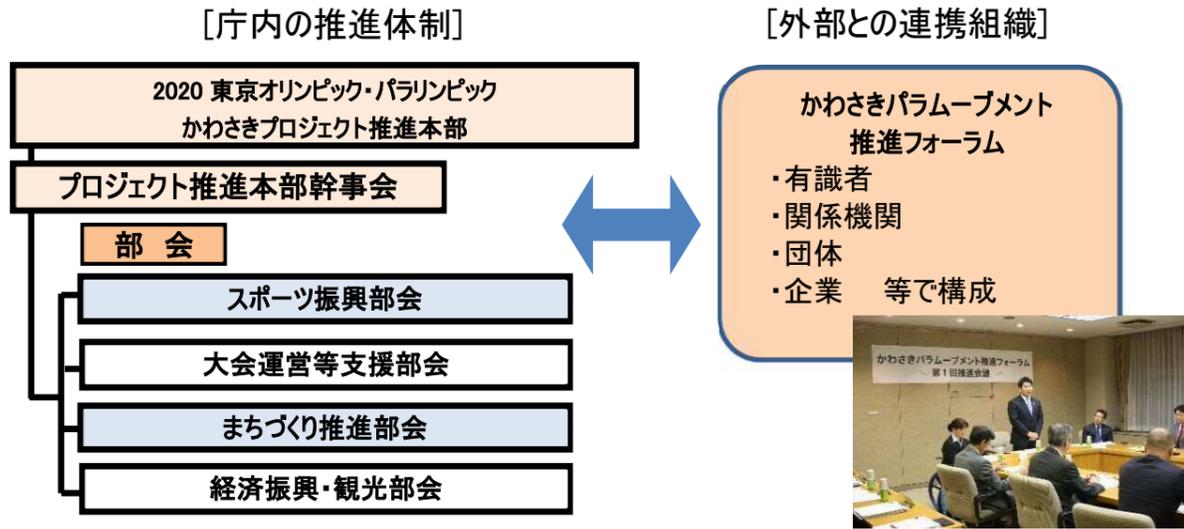
(平成28年5月19日)

1 策定の目的

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、東京大会に向けた本市の取組の方向性や目指すべきレガシー（遺産）を明らかにし市民と共有するとともに、取組を計画的に進めていくため「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を策定する。

【検討経過】

- 2015年2月 「2020 東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト取組方針」策定・公表
- 9月 検討部会において推進ビジョン策定に向けた中間まとめを実施
- 10月 推進本部と外部との連携組織として、「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」を設置
- 11月 推進フォーラム「ひとづくり・おもてなし分科会」「まちづくり分科会」を開催



2 東京2020大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方

(1)「かわさきパラムーブメント」について

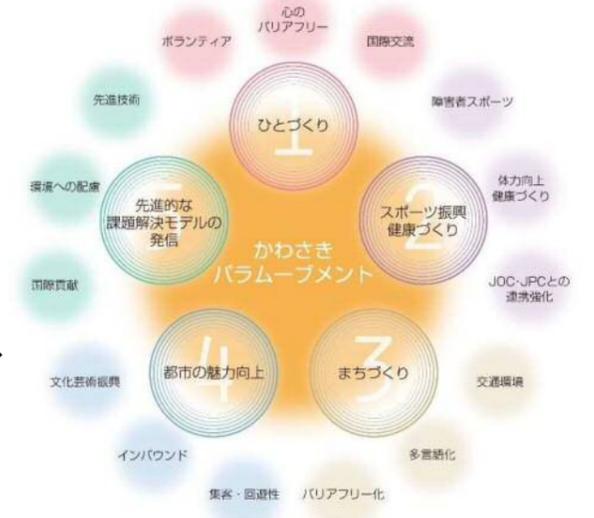
東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、本市は「かわさきパラムーブメント」をメインコンセプトに掲げ、2020年のその先へとつながる新しい社会を市民と共に創る運動として発展させていく

【かわさきパラムーブメント～その背景と目指すもの～】

- 将来の課題を先取りする
少子高齢化、人口減少社会の到来を見据え、持続可能なまちづくりを進めていくため、一人ひとりが尊重され、能力を發揮することができる環境づくりを進めていくことが重要である。
- パラリンピックに重点を置くということ
パラリンピックは大会を追うごとに参加国とその選手の数が 증가していると言われています。このパラリンピックを未来につながるダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（さまざまな人が自分らしく社会の中に混ざり合えること）の象徴と捉え、パラリンピックに重点を置くという方針を打ち出す。
- 「かわさきパラムーブメント」から市制100周年へ
パラリンピックを応援することにとどまらず、障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや、新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」として展開していくことを目指していく。「かわさきパラムーブメント」が市内の隅々に行き渡ることで、東京2020大会終了後、さらには2024年の市制100周年につながる実践的な取組が進むと考えられる。

「かわさきパラムーブメント」の5つの方向性

「かわさきパラムーブメント」の取組を幅広い領域で展開していくため、世界最大のスポーツと文化の祭典であるオリンピック・パラリンピックの特徴や、本市の持つ強みやポテンシャルを捉える5つの方向性（「ひとづくり」「スポーツ振興・健康づくり」「まちづくり」「都市の魅力向上」「先進的な課題解決モデルの発信」）を設定し、これまでの取組をさらに深めるとともに、2020年に向けた加速度的な推進を目指していく。



【取組推進の考え方】

また、「かわさきパラムーブメント」をより良い社会への変革につながる、市民を巻き込んだムーブメントとして展開させていくため、次の2つの取組の両輪で推進を図っていくものとする。

- ① 新たな総合計画と連動した本市の取組
- ② 推進フォーラム等の提案に基づく多様な主体の連携による取組

(2) 推進ビジョンの取組期間について

大会終了後に取組の成果を検証し、2024年の市制100周年や、その後のまちづくりにつながるレガシー形成を見据え、2016年度から東京2020大会終了後の2021年度までの6年間を本推進ビジョンの取組期間とする。

また、東京大会に向けた機運の高まりや、大会組織委員会等の動向を踏まえ、各分野の取組を段階的に拡充・進化させていくことや、新たな総合計画との整合を図るため、6年間に3つのフェーズを設定し、推進ビジョンの見直しを行っていく。このたび策定する本ビジョンは、主に第1期推進期間の取組を中心に取りまとめを行うものである。



3 第1期推進期間(2016年度・2017年度)の主な取組

5つの方向性に基づく本市の取組とともに、かわさきパラムーブメント推進フォーラムからの提案をもとにしたプロジェクトづくりを進める。

観光

〈大会後のレガシー〉

- ボランティア文化（人材・しくみ・意識）
- 心のバリアフリー
- 多文化共生の社会
- 国際社会に貢献できる人材
- 障害のある人に配慮した就労環境



[具体的な取組（主な取組）]

ボランティア活動の推進

- スポーツイベント等におけるボランティアの募集
- 事前キャンプ受け入れに向けたボランティアの育成

心のバリアフリーの推進

- 市内イベントにおける障害のある人の就労体験の実施
- 障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントの実施

国際交流の推進

- 英国との交流事業の実施と「ホストタウン構想」の推進
- 小学校における英語教育の推進

都市の魅力向上

〈大会後のレガシー〉

- 多言語に対応した観光施設
- 拠点化・ネットワーク化された観光資源
- 市民・来訪者がICTを利用しやすい環境
- 国内外に浸透した本市のブランドイメージ
- 誰もが文化芸術に親しめる環境



[具体的な取組（主な取組）]

市内への集客・回遊性の向上

- 川崎駅北口への魅力発信施設の開設
- 市内施設の回遊性の向上
- 観光ツアー商品の開発に向けたPR

外国人観光客の増加に向けた取組

- 民間事業者と連携したインバウンド向けの取組の推進
- 多言語対応による情報発信や施設案内
- Wi-Fi 環境の充実

文化・芸術の振興

- オリンピック・パラリンピックをテーマとした企画の実施
- コンサート等でのバリアフリープログラムの拡充
- 多様な主体による文化プログラムの実施

スポーツ振興・健康づくり

〈大会後のレガシー〉

- 誰もがスポーツに親しめる環境
- 健康づくりや生きがいにつながるスポーツや運動の習慣
- アスリートを発掘・育成・支援する環境



[具体的な取組（主な取組）]

障害者スポーツの推進

- 障害者スポーツの推進組織の強化
- 障害のある人も参加できるスポーツ広場の定期開催
- 大規模スポーツ大会を通じたパラリンピック競技の普及促進
- 全国規模の障害者スポーツ大会の誘致・開催

スポーツによる体力向上や健康づくり

- スポーツパートナーによるスポーツ教室の実施
- ジュニアアスリートの育成・強化
- スポーツ・文化総合センターのオープンを契機としたスポーツ推進

JOCやJPCとの連携の推進

- オリンピアンへの派遣によるスポーツ教室の実施
- 事前キャンプへの対応

先進的な課題解決

〈大会後のレガシー〉

- 高度な医療ニーズに対応した、革新的な医薬品・医療機器の開発による国際的な課題解決への寄与
- 低炭素化の推進による地球環境問題解決への寄与
- 新たな福祉製品・サービスの創出による国際的な高齢化の課題解決への寄与
- 先端技術に関する世界的なプレゼンス

[具体的な取組（主な取組）]

先端技術の世界に向けた発信

- 殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）の形成
- 水素関連技術の普及促進
- 環境先進都市としての特徴と強みを活かした国際社会への貢献
- 環境配慮型社会の実現に向けた情報発信
- 福祉製品、サービスの開発企業との連携
- ICTを活用した快適で利便性の高いまちづくりの推進
- スマートシティの推進

まちづくり

〈大会後のレガシー〉

- ユニバーサル化（バリアフリー化・多言語化）の進んだ公共空間
- 羽田空港を核とする成長戦略拠点と連動した交通ネットワークの形成



[具体的な取組（主な取組）]

交通環境の向上

- UD タクシーの普及や利用環境の整備
- 東京都、大田区等との交通ネットワーク構築

案内表示の見直し

- 公共サインの整備に関するガイドラインによる取組の推進
- 川崎駅北口自由通路の整備による案内サインの設置

バリアフリー化の推進

- 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進
- スポーツ施設のバリアフリー化の推進

「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の提案に基づくプロジェクトづくり

推進フォーラム委員の提案に基づき、多様な主体の連携によるプロジェクトづくりに向けて、実施手法等の検討を進めていく。

【2016年度から具体的な検討に入る主なプロジェクト】

- アクセシブルシティかわさき（飲食店など商業施設のバリアフリーの状況に関する取材と情報発信）
- パラスポーツやってみるキャラバン（小中学校等でのパラスポーツを体験する巡回講座の実施）
- 誰でも参加！インクルーシブなカワサキハロウィン（カワサキハロウィンの老若男女、障害者、健常者すべての人が楽しめる仮装イベントとしてのプロジェクト化）
- 宿泊施設のバリアフリー化促進プロジェクト（車いす利用者をはじめ、障害のある人に配慮した宿泊施設を増やすための仕組みづくりの検討）



かわさきパラムーブメント推進ビジョン

平成28（2016）年3月

川 崎 市

はじめに

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるまで、あと4年足らずとなりました。56年ぶりに東京で開催される夏のオリンピック・パラリンピックに、懐かしい思い出が蘇る人、繰り広げられるドラマに期待を寄せる人、今はまだ関心の無い人、抱く思いはさまざまだと思います。私自身は夏のオリンピック・パラリンピックを目の当たりにするのは初めての経験で、今から東京2020大会を心待ちにしている一人ですが、それと同時に、このまちの未来に向けて、次の世代に対して、この東京2020大会はどのような意味を持つのだろうかということを考えずにはられません。

川崎市は開催都市から最も近い都市の一つですから、直接競技会場に足を運んで競技を観戦できる市民は多いでしょう。また、空港に隣接するなど立地の良さから、多くの人々が川崎を訪れることで経済波及効果も得られるかもしれません。しかし、東京大会を一過性のイベントではなく、未来につながるマイルストーン（里程標）として捉えたとき、それ以上の価値と、あと4年の間に私たちがなすべきことが見えてくるように思います。

この「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」は2020年に向けて、川崎市が進む方向性や、まちの未来像を取りまとめたものです。このビジョンを多くの市民の皆さんと共有しながら、柔軟にそして着実に取組を進めてまいります。

このビジョンの取りまとめにあたりまして、「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の皆さまに御尽力いただいたことにも心から感謝申し上げます。

川崎市長 福田 紀彦

目次

1 かわさきパラムーブメント推進ビジョンについて	
策定の目的	・・・・・・・・ 1
2 東京2020大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方	
(1)「かわさきパラムーブメント」について	・・・・・・・・ 1
(2) 推進ビジョンの取組期間について	・・・・・・・・ 3
3 第1期推進期間(2016年度～2017年度)の主な取組	
(1) ひとづくり	・・・・・・・・ 4
(2) スポーツ振興・健康づくり	・・・・・・・・ 7
(3) まちづくり	・・・・・・・・ 11
(4) 都市の魅力向上	・・・・・・・・ 14
(5) 先進的な課題解決モデルの発信	・・・・・・・・ 17
4 かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組	・・・・・・・・ 19
(1) かわさきパラムーブメント推進フォーラムについて	・・・・・・・・ 19
(2) プロジェクトづくりに向けた取組	・・・・・・・・ 20
参考資料:2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト	
推進本部設置要綱	・・・・・・・・ 22
2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたかわさきプロジェクト外部連携会議開催運営等要綱	・・・・・・・・ 25
かわさきパラムーブメント推進フォーラム名簿	・・・・・・・・ 26
用語解説	・・・・・・・・ 27

1 かわさきパラムーブメント推進ビジョンについて

策定の目的

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、東京大会に向けた本市の取組の方向性や目指すべきレガシーを明らかにし市民と共有するとともに、取組を計画的に進めていくため「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を策定します。

2 東京2020大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方について

(1)「かわさきパラムーブメント」について

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、本市は「かわさきパラムーブメント」をメインコンセプトに掲げ、2020年のその先へとつながる新しい社会を市民と共に創る運動として発展させていきます。

かわさきパラムーブメント～その背景と目指すもの～

■ 将来の課題を先取りする

今、日本は少子高齢化、人口減少社会へと向かっていますが、この問題は人口が増え続ける川崎市も例外ではありません。将来人口推計によると、東京2020大会が開催される2020年、本市の高齢化率は21%を超え、2030年の152.2万人をピークにその後は減少へと転じていく見込みです。高齢化の進行に伴い、心身に障害を持つ人や介護が必要な人が増えることが想定されますが、持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少社会を見据え、一人ひとりが尊重され、能力を発揮することができる環境づくりを進めていくことがとても重要になります。

■ パラリンピックに重点を置くということ

パラリンピックは大会を追うごとに参加国とその選手の数が増えていると言われています。このパラリンピックを未来につながるダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（さまざまな人が自分らしく社会の中に混ざり合えること）の象徴と捉え、パラリンピックに重点を置くという方針を打ち出しました。

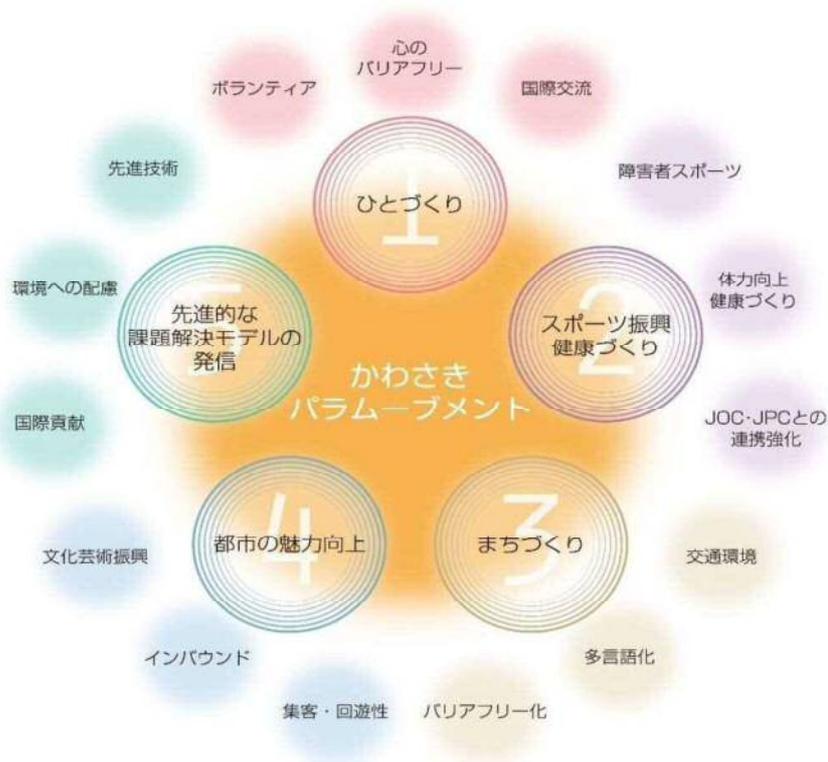
■ 「かわさきパラムーブメント」から市制100周年へ

そこから生まれたのが「かわさきパラムーブメント」の理念です。パラリンピックを応援することにとどまらず、障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」としてさまざまな分野で展開していくことを目指しています。

「かわさきパラムーブメント」が市内の隅々に行き渡ること、東京2020大会終了後、さらには2024年の川崎市制100周年につながる実践的な取組が進むと考えられます。

■ 「かわさきパラムーブメント」の5つの方向性

世界最大のスポーツと文化の祭典であるオリンピック・パラリンピックの特徴や本市の強みを踏まえ、政策領域を幅広く捉える5つの方向性を設定し、これまでの取組の深化と加速度的な推進を目指します。



(2) 推進ビジョンの取組期間について

かわさきパラムーブメント推進ビジョンは、2016年度から東京2020大会終了後の2021年度までの6年間を取組期間としています。この計画期間は、大会終了後に取組の成果を検証し、2024年の市制100周年やその後のまちづくりにつながるレガシーにつなげていくことを意図したものです。

また、東京2020大会に向けた機運の高まりや、大会組織委員会等の動向を踏まえ、各分野の取組を段階的に拡充・進化させていくことや、新たな総合計画との整合性を図るため、6年間に3つのフェーズを設定し、推進ビジョンの見直しを行います。本推進ビジョンでは主に第1期推進期間の取組を中心に取りまとめをいたしました。



3 第1期推進期間(2016年度～2017年度)の主な取組

(1) ひとつづくり

オリンピック・パラリンピックは、選手や観客など世界中から多くの人が集まると同時に数多くのボランティアが大会の運営や大会期間中のおもてなしを支えます。障害の有無や国籍の違いを越えて共に東京 2020 大会の感動を分かち合う、その経験や活動のモデルは、市民一人ひとりが輝けるまちづくりに向けた大きな財産となります。東京 2020 大会に向けたボランティア人材の育成や心のバリアフリー、国際交流を推進することで、心がつながり通い合う、「ひとつづくり」のための取組を進めます。

〈大会後のレガシー〉

- ボランティア文化（人材・しくみ・意識）
- 心のバリアフリー
- 多文化共生の社会
- 国際社会に貢献できる人材
- 障害のある人に配慮した就労環境

Movement 2016 ▶ 2017

～第1期推進期間の具体的な取組～

① ボランティア活動の推進

大会会場から最も近い都市の一つとして、多くのボランティアが参加することで大会運営に積極的に協力できるよう、市内イベントの活用や関係団体との連携によりボランティアの実践的な育成や、ボランティアへの関心を高める取組を進めます。

【具体的な取組】

■ スポーツイベント等におけるボランティアの募集

多摩川ランフェスタ等の市主催の定期的なスポーツイベントにおいてボランティアを募集し、東京 2020 大会に向けたボランティアの発掘・育成の機会とします。

■ 関係団体との連携によるボランティア講座の開催

かわさき市民活動センター、川崎市社会福祉協議会、川崎市国際交流協会等との連携により、さまざまな分野のボランティア講座を開催します。

■ 事前キャンプ受け入れに向けたボランティアの育成

市内中学校、高校、大学等との連携により、英国陸上チームの事前キャンプ受け入れに向けたボランティアスタッフの育成や体制づくりについて検討を進めます。



② 心のバリアフリーの推進

一人ひとりが違いを認め合い活かし合う体験を身近で楽しいイベントを通じて積み重ね、心のバリアフリーを進めます。また、それらの取組をモデルに、障害のある人の社会参加や就労機会の拡充に取り組みます。

【具体的な取組】

■ 市内イベントにおける障害のある人の就労体験の実施

ピープルデザイン研究所との連携により、川崎フロンターレホームゲームなど市内スポーツイベントや映画、音楽イベントなどで、福祉事業所に通う障害のある人の就労体験を実施します。

■ 障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントの実施

多摩川ランフェスタ等、障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントや、同時開催による障害者スポーツ体験を実施します。

■ 障害者雇用・就労促進かわさきプロジェクトの実施

障害があっても働く意欲を実現できる、自立と共生の社会をめざし、企業・当事者・社会全体にアプローチした事業を実施します。勤務時間や就労携帯の工夫など、障害のある人それぞれの状況に応じた働き方が可能となるよう実践的な取組を進めます。

③ **国際交流の推進**

オリンピックやパラリンピックの意義について理解を促進するとともに、事前キャンプの受け入れ等を通じて国際交流の機会を創出することにより、多様な文化を尊重する意識啓発や国際社会で活躍することができる人材育成に取り組めます。

【具体的な取組】

■ **姉妹友好都市との交流の推進**

2016年に友好都市提携20周年を迎える韓国富川市と、サッカー交流を行います。また、英国シェフィールド市について、2020年の友好都市提携30周年に向けた交流事業の検討を進めます。

■ **英国との交流事業の実施と「ホストタウン構想」の推進**

本市で事前キャンプを行う英国オリンピック委員会への協力を契機として英国とスポーツ、文化、教育、産業など幅広い分野での交流事業を実施します。また、これらの取組については国が進める「ホストタウン構想」を活用します。

■ **小学校における英語教育の推進**

グローバル社会の中で、積極的に外国人と英語でコミュニケーションする児童の育成に向け、小学校における英語教育のさらなる推進に取り組めます。

CHECK!

川崎国際多摩川マラソンで活躍するボランティア

毎年秋に開催される川崎国際多摩川マラソンでは200名にも上るボランティアが大会の運営を支えています。2015年度からは、それらのスタッフに混ざりながら、障害のある方が給水ポイントにて約6,000人のランナーの走りを支える側として就労体験を行っています。東京2020大会までに、大会運営に携わる障害者の割合が、国民のうちの障害者の割合である6%と同じ割合になるよう、「さまざまな人が混ざり合ってスポーツをする・観る・支える」取組を推進します。



(2) スポーツ振興・健康づくり

東京 2020 大会を契機として、スポーツや健康づくりへの関心を高め、「する・見る・支える」の視点からスポーツの推進を図ります。誰もが健康的で生き生きと暮らすことのできるまちづくりに向けて、スポーツや運動に親しめる環境づくりを進めるとともに、競技スポーツの振興に取り組むことにより、オリンピックやパラリンピックをはじめとする世界の舞台で活躍する川崎育ちのアスリートを育成するための取組を進めます。

〈大会後のレガシー〉

- 誰もがスポーツに親しめる環境
- 健康づくりや生きがいにつながるスポーツや運動の習慣
- アスリートを発掘・育成・支援する環境

Movement 2016 ▶ 2017

～第1期推進期間の具体的な取組～

① 障害者スポーツの推進

障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、障害者スポーツの拠点の充実や障害者スポーツの普及促進を図ります。また、パラアスリートの支援や競技スポーツとしてのパラスポーツの魅力伝える取組を進め、スポーツを通じたインクルーシブなまちづくりを進めます。

【具体的な取組】

■ 障害者スポーツの推進組織の強化

2015年10月に創設した川崎市障害者スポーツ協会の活動として、障害者スポーツに関する情報発信や団体間のネットワークづくりのほか、障害者スポーツを体験できるイベントなど、障害者スポーツの普及に向けた取組を進めます。



■ 等々力陸上競技場プロジェクトの展開

等々力陸上競技場をパラアスリートや地域障害者スポーツ団体の練習場所として優先利用日を設定し、障害者スポーツの拠点としての活用を図ります。

■ 障害者スポーツの環境づくりに向けた民間企業等との連携の推進

企業や学校、民間スポーツクラブ等との連携による練習場所の提供など、障害者スポーツの環境づくりに向けた民間企業等との連携を推進します。

■ 障害のある人も参加できるスポーツ広場の定期開催

障害のある人の運動機会拡充に向けて、富士通スタジアム川崎等を会場に、スポーツ広場を定期的に開催します。

■ 小中学校等における障害者スポーツ体験講座の実施

パラアスリートを講師に迎え、パラスポーツの魅力を体感する巡回講座を小中学校等で開催します。

■ 障害者スポーツ普及促進事業（かわさきインクルージョンモデル）の実施

ボランティア人材の育成や情報発信など、障害者スポーツ普及のための仕組みについてのモデル事業を通じた実践研究を行います。（スポーツ庁委託事業）

■ 大規模スポーツ大会を通じたパラリンピック競技の普及促進

国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上」などにおいて、競技種目の中にパラアスリートのエントリーを行い、同じステージで競い合うことや、パラ競技種目を実施することで、パラリンピック競技への関心を高めます。

■ 全国規模の障害者スポーツ大会の誘致・開催

全日本アンブティサッカー選手権大会、全日本デフバレー選手権大会など、全国規模の障害者スポーツ大会を誘致・開催し、障害者スポーツを観戦できる機会の充実を図ります。

■ 障害者スポーツを地域で支える指導者や支援者の育成

初級障害者スポーツ指導員養成講習会を毎年11月に実施するとともに、障害者スポーツ普及促進事業（かわさきインクルージョンモデル）において、（仮称）障害者サポーター認定制度の実践研究を行います。

■ 各区スポーツセンターにおける障害者スポーツの取組の推進

障害のある人が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを進めていくため、各区スポーツセンターにおいて障害者スポーツ普及に向けた取組を推進します。



② **スポーツによる体力向上や健康づくり**

市民の生活を元気で生き生きとしたものにするために、スポーツや運動の機会の充実に向けた取組を進めます。

また、東京 2020 大会をはじめとした国際大会で活躍できる次世代アスリートの育成に向けた取組や、スポーツの拠点となる施設の充実を図ります。

【具体的な取組】

■ **市民参加のスポーツイベントの開催**

多摩川ランフェスタや各区における地域の特色を活かしたスポーツイベントなど、市民が気軽に参加することができるスポーツイベントを開催します。また、これらの活動を推進するため、地域人材であるスポーツ推進委員会と連携・協力していきます。

■ **全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣**

高齢者の健康維持、社会参加、生きがいづくりのため、全国健康福祉祭（ねんりんピック）に選手を派遣します。

■ **かわさきスポーツパートナーによるスポーツ教室の実施**

本市を拠点に活動するプロチーム・実業団チームに所属する選手やコーチを講師として招き、小中学生を対象としたスポーツ教室を実施します。



■ **ジュニアアスリートの育成・強化**

川崎市スポーツ協会を通じて、加盟する競技団体について、選手の育成、強化、及び指導者育成に取り組みます。

■ **スポーツ・文化総合センターのオープンを契機としたスポーツ推進**

2017年にオープン予定のスポーツ・文化総合センターにおいて、オープン記念のスポーツイベントを開催するなど、施設の開館を契機としたスポーツ推進を図ります。

■ **等々力陸上競技場の施設の充実**

等々力陸上競技場及び補助競技場について、国際大会や事前キャンプの円滑な開催・運営に向けた施設の充実について取組を進めます。

③ JOCやJPCとの連携の推進

JOCパートナー都市協定に基づく取組の推進など、オリンピックやパラリンピックに向けた日本オリンピック委員会（JOC）や日本パラリンピック委員会（JPC）との連携を深め、大会運営やアスリート支援に向けた積極的な協力体制を築きます。



【具体的な取組】

■ JOC加盟団体への施設提供

等々力陸上競技場をはじめとする市内施設を国内競技団体の練習会場として提供します。また、川崎マリエンについては、ビーチバレーボール選手強化を支援する「JOC競技強化センター」として施設を提供します。

■ オリンピアンへの派遣によるスポーツ教室の実施

JOCパートナー都市協定に基づき、大規模スポーツ大会のサブイベント等において、オリンピックを招いたスポーツ教室や体験会を実施します。

■ 事前キャンプへの対応

JOCによるコーディネートや助言に基づき、英国をはじめとする事前キャンプの受け入れに的確に対応します。

CHECK!

等々力陸上競技場が舞台！スポーツを通じたインクルージョンへの挑戦

ソニーコンピュータサイエンス研究所で義足を研究している遠藤謙氏やオリンピックの為末大氏らが設立した Xiborg（サイボーグ）は、陸上競技用の義足を開発し東京 2020 パラリンピックに出場できる選手を育てるプロジェクトを進めています。本市はパラアスリートを支援する取組として Xiborg に所属する義足のトップアスリート（春田純選手、佐藤圭太選手、池田樹生選手）の練習場所として、等々力陸上競技場の活用を進めています。

また、2015年に3年ぶりに開催された国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上」では、T43/44 クラスのパラリンピック男子 100m のレースが行われたほか、男子走高跳には、義足アスリートが出場しパラアスリート達のパフォーマンスに1万人を超える観客が湧きました。今後も健常者と障害者が同一の大会に出場できる取組を進め、パラリンピック競技等の認知度向上や、スポーツを通じたインクルージョンを促進していきます。



(3) まちづくり

東京 2020 大会の開催期間中には国内外からさまざまな人が本市を訪れます。東京 2020 大会を契機に、交通環境の向上をはじめ、駅周辺や公共的施設のバリアフリー化、多言語化に配慮した案内表示の充実など、ユニバーサルデザインを推進するとともに、交通ネットワークを戦略的に充実させることにより、住む人・来る人にやさしい未来につながる「まちづくり」のための取組を進めます。

〈大会後のレガシー〉

- ユニバーサル化（バリアフリー化・多言語化）の進んだ公共空間
- 羽田空港を核とする成長戦略拠点と連動した交通ネットワークの形成

Movement 2016 ▶ 2017

～第 1 期推進期間の具体的な取組～

① 交通環境の向上

誰もが安全、安心、快適に移動できるまちづくりを進めるため、公共交通機関のユニバーサルデザインを推進します。また、東京 2020 大会に向けたニーズを捉え、公共交通機能を戦略的に強化する取組を進めます。

【具体的な取組】

■ UD タクシーの普及や利用環境の整備

誰でも利用可能な“みんな”にやさしいUDタクシーの導入補助を行うとともに、UDタクシーに対応した乗り場の整備を進めます。

■ バス車内表示器等による多言語案内

市内観光スポットを結ぶ路線において、多言語による音声案内を行うとともに、全路線について多言語による車内停留所表示を行います。

■ 東京都、大田区等との交通ネットワーク構築

羽田空港と川崎区殿町を結ぶ羽田連絡道路及び国道 357 号線の整備など道路整備を契機とした羽田空港を中心としたエリアの新たな交通ネットワークの形成に向けて国や関係自治体と協議を進めます。



② 案内表示の充実

統一感のある多言語案内サインの導入やピクトグラム等の活用の推進など、公共空間における案内表示の充実化を進めます。

【具体的な取組】

■ 公共サインの整備に関するガイドラインによる取組の推進

2015年度に取りまとめた「誰もが分かりやすい公共サイン整備に関するガイドライン」により、多言語に対応した案内サインの充実など本市の魅力や住む人・訪れる人の利便性の向上につながる取組を推進します。



■ 観光施設や防災施設等の案内表示板の多言語表記

市内観光施設等の案内表示板の多言語化を進めるとともに、津波避難施設入口の標識や一時滞在施設や広域避難所への誘導サイン等についても多言語化を進めます。災害発生時に多くの帰宅困難者の発生が予想される川崎駅については、川崎アゼリアの防災機能の強化を目的としたデジタルサイネージを設置し、4か国語による情報発信を行います。

■ 川崎駅北口自由通路の整備に伴う案内サインの統一化

2017年度に供用開始予定の川崎駅北口自由通路の整備に伴い、案内サインを新設するとともに、駅前広場の既存案内サインを更新し、案内サインの統一化を図ります。

③ バリアフリー化の推進

駅や道路、観光施設、スポーツ施設等公共的な施設のバリアフリー化に向けた取組を推進します。

【具体的な取組】

■ 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進

市内19地区におけるバリアフリー基本構想等に基づき、視覚障害者誘導用ブロックの設置や歩道の勾配の改善など鉄道駅及びその周辺地域のバリアフリー化を重点的に進めます。2015年の川崎駅周辺地区に続き、2016年度は溝口駅周辺、2017年度は武蔵小杉駅周辺のバリアフリー基本構想を改定し、バリアフリー化に取り組みます。

■ 公共的施設のバリアフリー化の促進

福祉のまちづくり条例に基づき、不特定多数が利用する公共的施設の新築、増改築等を行う場合に事前協議を義務付け、バリアフリー化を促進します。

■ スポーツ施設のバリアフリー化の推進

2015 年度までに実施した市内スポーツセンターの現地調査に基づき、2016 年度から3か年で優先度の高い施設や項目についてのバリアフリー化を進めます。2016年度はとどろきアリーナを対象に実施し、以後、順次他の施設について取組を実施します。

CHECK!

川崎の玄関口がより魅力的に！

～川崎駅北口自由通路 2017 年度供用開始～

1 日平均 20 万人もの乗車人員を誇る JR 川崎駅は市の玄関口とも言える存在。市では川崎駅周辺を広域拠点として機能強化を図る取組を推進しています。2009 年の西口北駅前広場の整備、2011 年の東口駅前広場の再整備に続き、北口自由通路と新たな改札口の整備に向けた取組を進めています。

●ユニバーサルデザインの推進

川崎駅東口駅前広場と連携し、一体的な利用ができるよう、エレベーター・エスカレーターの整備や、分かりやすいサイン計画など、誰もが利用しやすい施設整備を進めています。



●エコ化

環境技術の展示場である川崎駅東口駅前広場と同様に、LED 照明による省エネルギー化や、ガラス素材を用いた自然採光による昼間の消費電力の縮減、ガラス面への光触媒を塗装し、メンテナンス頻度の低減化等の取組を進めています。

●魅力発信施設も開設

新設される北口自由通路には、魅力発信や行政サービスコーナーなど複合機能を持つ施設を設置します。住む人・訪れる人双方にとって、便利で魅力的な施設となるよう検討を進めています。

東京 2020 大会に向けてさらに利用が増えることが予想される川崎駅。生まれ変わった駅が交通や情報発信の拠点となることが期待できます。

(4) 都市の魅力向上

本市には歴史、文化、産業など多彩な地域資源があり、東京 2020 大会はそれらの魅力を国内外に発信するチャンスと考えられます。国や他都市等とも連携しながら、市内の集客・回遊性の向上や、外国人観光客など本市を訪れる人へのおもてなしのための取組を進め、国内外に向け本市の魅力を発信します。また、文化芸術活動の面からも「かわさきパラムーブメント」につながる取組を行い、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを進めるとともに、文化芸術の振興により本市のブランド力を高めます。

〈大会後のレガシー〉

- 多言語に対応した観光施設
- 拠点化・ネットワーク化された観光資源
- 市民・来訪者が I C T を利用しやすい環境
- 国内外に浸透した本市のブランドイメージ
- 誰もが文化芸術に親しめる環境

Movement 2016 ▶ 2017

～第 1 期推進期間の具体的な取組～

① 市内への集客・回遊性の向上

観光案内や本市の魅力発信をさらに充実させるとともに、施設間の連携を推進します。また、国や他都市等との連携による共同セールスや民間事業者との連携による観光ツアー商品の開発など、市内への集客・回遊性の向上に向けた取組を進めます。

【具体的な取組】

■ 川崎駅北口への魅力発信施設の開設

2017 年度に完成する川崎駅北口自由通路に魅力発信施設を開設し、多言語による観光案内や、さまざまな手法による魅力発信の取組を展開します。

■ 市内施設の回遊性の向上

市内博物館・美術館の共通利用券や生田緑地 4 館（日本民家園・かわさき宙と緑の科学館・岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム）の連携やスタンプラリーの実施等により施設間の回遊性の向上を図ります。

■ 観光ツアー商品の開発に向けたPR

産業観光、生田緑地、各種イベントなど、本市の観光資源のPRやモデルコースの提案を民間事業者に行い、ツアーの開発を促進します。

■ 他都市等と連携した観光振興策の推進

九都県市等他都市との連携により、首都圏の魅力ある周遊ルートの設定や、近隣美術館や博物館との共通割引の実施等に向けた検討を行います。

② 外国人観光客の増加に向けた取組

国・他都市や民間事業者等と連携しながら、国外に向けたセールスを展開するとともに、多言語対応による情報発信やサービスの提供、通信環境の充実に向けた取組を進めます。

【具体的な取組】

■ 民間事業者と連携したインバウンドに関する取組の推進

本市と協定を締結した(株)ぐるなびや日本観光振興協会のほか、宿泊施設、鉄道事業者、飲食店等と連携し、セミナーや旅行商品の開発等インバウンド誘客のための取組を行います。

■ 国内外旅行博でのセールス展開

市観光協会と共同で国内のトラベルマート等に参加するとともに、国外で開催される旅行博へ参加し、セールスを展開します。

■ 多言語対応による情報発信や施設案内

ホームページの多言語対応を推進するとともに、市観光協会との連携により、多言語版観光ガイドブックの発行や多言語版観光ホームページを運営します。また、藤子・F・不二雄ミュージアム等各観光施設において、多言語による情報発信や音声ガイドの導入促進を図ります。

■ Wi-Fi 環境の充実

民間事業者との連携などにより、「かわさき Wi-Fi」の取組を進め、市内のWi-Fi 利用エリアを拡大するとともに、利用者の利便性を考慮して、日本語を含めた英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語など11言語に対応したWi-Fi 接続アプリを活用して接続の簡略化を図ります。

③ **文化・芸術の振興**

文化芸術活動を通じて、オリンピック・パラリンピックの理解の促進を図るとともに誰もが文化芸術活動に親しめる環境づくりや、文化芸術活動による川崎の魅力発信に取り組みます。

【具体的な取組】

■ **オリンピック・パラリンピックをテーマとした企画の実施**

ミュージア川崎シンフォニーホールや岡本太郎美術館などの文化芸術施設において、オリンピックやパラリンピックに関連したテーマで魅力ある企画を実施します。

■ **文化施設やイベント等でのバリアフリープログラムの拡充**

アートセンター映像ホールでのバリアフリー上映会や福祉施設等での公演など、障害のある人や高齢者も参加しやすいバリアフリープログラムを拡充します。

■ **多様な主体による文化プログラムの実施**

「かわさきジャズ」や「KAWASAKI しんゆり映画祭」など、大学、文化団体、企業など市内の多様な主体と連携した文化プログラムを展開し、川崎の魅力を発信します。

CHECK!

多彩な魅力と多言語サービスで外国人観光客の人気も up ～生田緑地～

豊かな自然とともにさまざまな文化施設を有する生田緑地。中でも 2011 年にオープンした藤子・F・不二雄ミュージアムは多くのお客様をお迎えし、2015 年 10 月には来館者が 200 万人を突破、年々海外からの来館者も増加しています。同ミュージアムでは音声ガイド「おはなしデンワ」による多言語での音声案内を実施しています。機器の貸し出し台数は年間約 53,000 件（2014 年度）にも上ります。



©Fujiko-Pro

また、日本民家園も日本らしさを本格的に味わえる施設として外国人観光客の人気が高まっています。2017 年に開園 50 周年を迎える日本民家園では、現在外国語リーフレットの提供やボランティアによる英語ガイドを実施していますが、多言語音声ガイドの導入など、海外からのお客様の「おもてなし」充実に向けた検討を進めています。

生田緑地の多彩な地域資源が、東京 2020 大会に向けたインバウンド誘致の呼び水として大きな役割果たそうとしています。

(5) 先進的な課題解決モデルの発信

本市がこれまでに培ってきたものづくり技術や集積する高度先端技術を活かして、成長が期待されるライフサイエンス、環境、福祉などの産業分野を発展させることにより、超高齢社会の到来や、エネルギー政策の転換、地球環境問題などのさまざまな課題の解決に向けた取組を行うことで国際社会に貢献するとともに、持続的な経済成長に寄与する取組を進め、こうした取組を「先進的な課題解決モデル」として展開し、国内外に広く発信していきます。

〈大会後のレガシー〉

- 高度な医療ニーズに対応した、革新的な医薬品・医療機器の開発による国際的な課題解決への寄与
- 低炭素化の推進による地球環境問題解決への寄与
- 新たな福祉製品・サービスの創出による国際的な高齢化の課題解決への寄与
- 先端技術に関する世界的なプレゼンス

Movement 2016 ▶ 2017

～第1期推進期間の具体的な取組～

① 先端技術の世界に向けた発信

世界が直面している課題の解決に貢献するため、本市では、ライフイノベーション、グリーンイノベーション、ウェルフェアイノベーションの3つのイノベーションの推進により、先端技術の世界に向けたプレゼンスを示すことができるまちとして、さまざまな取組を進めます。

【具体的な取組】

■ 殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）の形成

アルツハイマー病、難治がん、脊椎損傷の治療法、最先端医療ロボットなどの革新的な医薬品・医療機器の開発や製造により、世界が直面している、超高齢社会等の課題解決に貢献するとともに、新産業を創出する拠点形成に取り組み、ライフイノベーションを推進します。

■ 水素関連技術の普及促進

水素社会の実現を目指し、再生可能エネルギーと水素を用いた自立型エネルギー供給システム共同実証事業や使用済プラスチックから製造した水素をパイプラインで輸送し、純水素型燃料電池で利用する技術実証などさまざまなリーディングプロジェクトを実施するとともに、国や関係自治体・企業等多様な主体との連携により新たな水素プロジェクトを創出し、推進します。

■ 環境先進都市としての特徴と強みを活かした国際社会への貢献

川崎がこれまで培ってきた優れた環境技術や公害を克服する過程で得られた経験を活かして、新たな環境技術を作り出すとともに、こうした技術を海外に技術移転することによる国際社会への貢献をめざすグリーンイノベーションの取組を推進します。

■ 環境配慮型社会の実現に向けた情報発信

地球温暖化や再生可能エネルギー、ごみなどの資源循環について、楽しく学ぶことができるかわさきエコ暮らし未来館や近接するメガソーラー発電所などにより、環境配慮型社会の実現に向けた情報発信の取組を進めます。



■ 福祉製品、サービスの開発企業との連携

ウェルフェアイノベーションフォーラムの取組などにより、市内中小企業の優れた技術力などを応用した利用者のニーズに応えた福祉製品の創出や福祉産業の拡大、活性化のための取組を進めます。

■ ICTを活用した快適で利便性の高いまちづくりの推進

民間事業者と連携したWi-Fi利用エリアの拡大による市内インターネット利用環境の向上、必要な情報を必要なタイミングで提供するスマートフォンアプリケーション「かわさきアプリ」を活用した効果的な情報発信、デジタルサイネージの導入などにより、快適で利便性の高いまちづくりに向けた取組を進めます。

■ スマートシティの推進

川崎駅周辺地区スマートコミュニティ事業における「川崎スマートEVバス」の導入をはじめ、地域全体のエネルギーマネジメント実証事業など、エネルギーの最適利用とICT・データの利活用によるスマートシティの実現に向けた取組を進めます。

4 かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組

(1) かわさきパラムーブメント推進フォーラムについて

2020年、多くの人と同じ舞台を見つめるこの機会に、ほんの少し先のわたしたちのまちの未来像も共有しながら、それぞれの立場から「かわさきパラムーブメント」を実践、自分ゴト化する。このフォーラムは市民、団体、企業等さまざまな主体がつながり、行動を起こすことで、川崎の未来につながる「ムーブメント」を創りだすための連携・協働の場として2015年10月に設置しました。

スポーツ、文化、おもてなしなど幅広い分野で活動する市民、企業、団体、有識者が集い、「かわさきパラムーブメント」推進に向けた取組の検討を進めています。東京大会終了後の2021年まで継続的に開催する計画です。

推進フォーラムで出された意見

- ✓ 障害の有無や環境に左右されない、あらゆる人々が身体運動を日常化できる、そんな都市を目指したい。
- ✓ 1964年の東京オリンピックで、日本の選手団が入場した時に思わず涙があふれた。2020年の子どもたちにもそんな感動を与えたい。
- ✓ オリンピック・パラリンピック、そして2016年から施行される障害者差別解消法、これは世界が変わるチャンスなんだ、そんな風に思っている。
- ✓ かつよくて、ワクワクするものに心が動く。スポーツやエンターテイメント、川崎が持つ魅力的なリソースを活用することが心を変えるきっかけになる。
- ✓ 行けるお店ではなく、行きたいお店に行く。障害があっても無くても、そんなことがあたりまえにできる社会にしたい。
- ✓ 点でやっているそれぞれの活動が、パラムーブメントというコンセプトで線になり、面になっていく。そんな展開を図りたい。
- ✓ 民間とうまく連携することで、パラムーブメントは長期的なムーブメントとなる。サステナビリティ（持続可能性）を根幹に据えた発想が重要。



(2) プロジェクトづくりに向けた取組

かわさきパラムーブメント推進フォーラムでは「かわさきパラムーブメント」の実践につながるプロジェクトの検討を進めています。

2016年度から具体的な検討段階に入る主なプロジェクトについて、そのコンセプトや取組予定をご紹介します。

① アクセシブルシティかわさき

まちづくり

都市の魅力向上

【検討中の取組内容】

- ・車いすユーザー等障害者の視点から、外食や宿泊、観光等に関する情報を取材し、ぐるなび等のWEBや紙媒体等で情報発信
- ・店舗や施設の情報のほか、観光スポットについては障害者にとって最適なアクセスマートの調査も実施
- ・2016年4月に施行される障害者差別解消法への対応に関する事業者向けセミナーを開催

提案委員からのメッセージ

車いすを使用していると、限られた情報の中から自分が「行きたいお店」ではなく、「行けるお店」を選ばざるを得ないのが現状です。今日はこんなお店で食事したいなと思った時に、気軽にそこへ出かけることができる、そんなあたりまえのことが誰の手にも届くまちづくりを進められるといいですね。

② パラスポーツやってみるキャラバン

スポーツ振興・健康づくり

ひとづくり

【検討中の取組内容】

- ・市内の学校において、パラスポーツを知り、体験する機会「キャラバン」を実施
- ・「かわさきパラムーブメント」のモデルとなる全市イベントとしての発展も検討

提案委員からのメッセージ

パラスポーツはまだ知名度が低く、その魅力に触れられる機会は多くありません。子どもに身近な場所である「学校」でパラスポーツが体験できれば、子どもから親へそして地域へと理解の輪が繋がっていくと思います。このプロジェクトがムーブメント化し、2020年東京パラリンピックの会場が満員になることを願っています。

③誰でも参加！インクルーシブなカワサキハロウィン 都市の魅力向上

【検討中の取組内容】

・大人も子どもも、障害がある人無い人、すべての人が楽しめるハロウィンイベントの実施

提案委員からのメッセージ

カワサキハロウィンは国内最大級のハロウィンパレードとして知られています。障害者は身体的に健常者と異なる部位があるので、仮装ではそんな身体の特徴を活かせるのでは。例えばフック船長の仮装とかカッコいいですね。楽しいイベントの中で健常者と障害者が混ざり合えば、心のバリアも自然に取り除かれていくと思います。

④宿泊施設のバリアフリー化促進プロジェクト まちづくり

【検討中の取組内容】

・市内宿泊施設のバリアフリー化に関する現状調査や・当事者のニーズ把握
・バリアフリー化補助制度など、事業者によるバリアフリー化を促進するための仕組みづくりの検討

提案委員からのメッセージ

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、宿泊施設のバリアフリー化は全国的な課題。川崎市も例外ではありません。「かわさきパラムーブメント」を東京大会までの一過性のものではなく、その後も継続可能な形で展開させていくには、民間事業者との協力体制を築くことが大切だと思います。ビジネスモデルとしても成立する形で、プロジェクトを推進できると良いですね。

参考資料

2020東京オリンピック・パラリンピック かわさきプロジェクト 推進本部設置要綱

(目的及び設置)

第1条 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「大会」という。）の成功に向け、関係都市等と連携・協力するとともに、本市のスポーツ文化や経済の振興などを通じて本市の発展を図るため、2020東京オリンピック・パラリンピック かわさきプロジェクト推進本部（以下「推進本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進本部は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) スポーツ文化の振興や市内スポーツ施設の活用に関すること。
- (2) 大会の円滑な開催の協力に関すること。
- (3) 市内への集客、経済・観光振興に関すること。
- (4) オリンピックを契機とした戦略的なまちづくりの推進に関すること。
- (5) 前各号に掲げるほか、大会に関連する施策の推進に関すること。

(組織等)

第3条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。

- 2 本部長及び副本部長は、それぞれ市長及び副市長をもって充てる。
- 3 本部長は、推進本部の事務を総理し、推進本部を代表する。
- 4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるとき、又は欠けたときは、本部長があらかじめ定めた順序によりその職務を代理する。
- 5 本部員は、病院事業管理者、上下水道事業管理者、川崎市事務分掌条例（昭和38年川崎市条例第32号）第1条に掲げる局及び同条例第2条の規定により設置された本部並びに区役所、交通局、病院局、消防局、教育委員会事務局の長及び本部長が必要と認める者をもって充てる。

(会議)

第4条 推進本部の会議は、必要に応じて本部長が招集し、主宰する。

2 本部長は、第1条の目的を達成するため、必要と認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(幹事会)

第5条 推進本部を補佐するため、推進本部に幹事会を置く。

2 幹事会は、別表第1に掲げる職にある者をもって構成する。ただし、幹事長

が必要と認めるときは、他の者を追加することができる。

- 3 幹事会に幹事長及び副幹事長を置き、それぞれ総合企画局都市経営部長及び市民・子ども局市民スポーツ室長をもって充てる。
- 4 幹事会は、幹事長が招集し、会議を主宰する。
- 5 幹事長は、必要に応じて、幹事以外の者を会議に出席させることができる。
- 6 幹事会の中に別表第2に掲げる職にあるものをもって、調整担当を設置する。
- 7 調整担当は、次の職務を分担する。
 - (1) 部会の設置等に関すること。
 - (2) 推進本部の計画等の策定及び進行管理に関すること。
 - (3) 外部関係組織との連絡調整に関すること。

(部会)

第6条 幹事長は、必要に応じて幹事会に部会を置くことができる

- 2 部会に部会長を置き、幹事長がこれを指名する。
- 3 部会は、部会長が招集し、会議を主宰する。
- 4 幹事長は、部会相互の調整を行うため、各部会の部会長に対して、合同部会の開催を求めることができる。
- 5 所掌事務、構成員その他部会の運営に関する事項は、幹事長が別に定める。

(庶務)

第7条 推進本部（部会を除く。）の庶務は、総合企画局において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成26年1月21日から施行する。

別表第1

幹事長	都市経営部長
副幹事長	市民スポーツ室長
幹事	各部会長

別表第2

調整担当	企画調整課長、広域企画課担当課長、行財政改革室担当課長、 財政課担当課長、部会を構成する所属の課長又は担当課長
------	--

参考資料

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたかわさきプロジェクト外部連携会議開催運営等要綱

(かわさきパラムーブメント推進フォーラム要綱)

(趣旨)

第1条 この要綱は、東京オリンピック・パラリンピックに向けたかわさきプロジェクト外部連携会議（以下「会議」という。）の運営に関し、必要な基本事項を定める。

(目的)

第2条 市長は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、誰もが暮らしやすく、多様な主体の協働による新しい社会の構築をめざす「かわさきパラムーブメント」の基本理念の具現化にあたり、次に掲げる事項について、会議委員の意見を求める。

- (1) スポーツ・健康
- (2) ダイバーシティ（多様性）
- (3) 文化
- (4) 地域活動・ボランティア
- (5) 社会・経済
- (6) エンターテイメント
- (7) 福祉
- (8) おもてなし
- (9) その他、市の発展に資する事柄

(会議の構成者)

第3条 会議は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体代表者
- (3) 市民

(開催期間)

第4条 会議の開催期間は、平成27年10月1日から平成33年3月31日までの期間とし、必要に応じて開催することとする。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、総合企画局都市経営部企画調整課において処理する。

附 則

この要綱は、平成27年10月1日から施行する。

かわさきパラムーブメント推進フォーラム 名簿

●共同委員長

氏名	役職等	分野
福田 紀彦	川崎市長	
成田 真由美	パラリンピアン 川崎市市民文化大使	

●顧問

(五十音順)

中森 邦男	日本パラリンピック委員会事務局長
日比野 哲郎	日本オリンピック委員会事務局長

●委員

(五十音順)

天野 春果	川崎フロンターレプロモーション部長	スポーツ・健康
遠藤 謙	株式会社サイボーグ代表取締役社長	スポーツ・健康
大塚 訓平	株式会社オーリアル代表取締役	まちづくり
小倉 敬子	公益財団法人かわさき市民活動センター理事長	地域活動・ボランティア
菊地 正	特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブSELF副理事長	地域活動・ボランティア
五島 三津雄	公益財団法人川崎市スポーツ協会事務局長	スポーツ・健康
島 桜子	一般社団法人チャレンジド・クリエイティブラボ代表理事	ダイバーシティ
杉山 尚美	株式会社ぐるなび執行役員	おもてなし
須藤 シンジ	特定非営利活動法人ビーブルデザイン研究所代表理事	ダイバーシティ
瀬戸山 正二	有限会社オフィスプライヤ代表取締役	スポーツ・健康
土岐 一利	株式会社チッタエンタテインメント取締役	エンタテインメント
中澤 信	株式会社バリアフリーカンパニー代表取締役社長	ダイバーシティ
中村 建治	株式会社フィード代表取締役社長	まちづくり
北條 秀衛	公益財団法人川崎市文化財団理事長	文化
山田 長満	川崎商工会議所会頭 川崎市国際交流協会会長	社会・経済
横島 正志	公益財団法人川崎市身体障害者協会事務局長	スポーツ・健康
ロー 紀子	特定非営利活動法人ママプラグ代表	福祉

用語解説（50音順）

●アンプティサッカー

主に上肢、下肢の切断障害を持った選手がプレーするサッカー。フィールドプレーヤーは2本のクラッチ(杖)を使用してプレーする。

●インクルーシブ

直訳では「包摂的な」の意味。

●インクルージョン

直訳では「包摂」の意味。包摂とは、ひとつの事柄をより大きな範囲の事柄の中にとりこむこと。

●インバウンド

訪日外国人旅行者

●ウェルフェアイノベーション

高齢化等に関わる社会問題の解決に資する新たな製品・サービスを産業の力で創出し、その活用を通じて、社会システムを構築することにより、安心社会の実現と本市の持続的な成長を図る本市の取組。

●川崎スマートEVバス

川崎駅前と市立川崎病院を結ぶバス路線「川崎病院線」で、2015年4月から運行開始した電気バス車両。環境負荷を低減する効果に加えて、利用者乗降や属性を把握する機能、車内での動画での情報配信などの機能も備えている。

●グリーンイノベーション

環境技術・環境産業の創出と振興により地域経済を活性化等、地球規模での環境問題やエネルギー問題等に対応し、持続可能な社会を実現することを目的とした本市の取組。

●事前キャンプ

大会に参加するアスリートの体調（コンディション）を調整したり、実績（パフォーマンス）の維持・向上を図る目的等において、選手団が任意に実施する大会期間前のトレーニング（練習）。

●スマートコミュニティ事業

エネルギーの最適利用による低炭素化をはじめ、ICT等の活用による市民生活の利便性や質の向上、災害時における安全・安心の確保に向けた取組を進める本市の事業。

●デジタルサイネージ

電子看板。電子的な表示装置（ディスプレイ）を利用した公告。

●デフバレー

デフ（聴覚障害者）によるバレーボールのこと。インドアは6人制、ビーチバレーは2人制で行われ、それぞれコートや用具、競技形式など一般のバレーボールのルールと同じ。

●トラベルマート

旅行会社や運輸・交通機関、観光施設等の観光関係事業者が参加する商談会。

●ピクトグラム

絵文字。絵を使った図表。

●ビジネスモデル

ビジネスの手法の基本形態。

●フェーズ

変化する過程の一区切り。段階。

●ムーブメント

運動。[用例：オリンピックの考え方や活動を世界の人々によく知ってもらい、大きく広げていく運動を「オリンピック・ムーブメント」という。]

●メインコンセプト

主要な概念。

●ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が使いやすいように工夫された用具、建物などのデザイン。

●ライフイノベーション

革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出など、医療・健康分野における研究開発から新産業を創出する本市の取組。

●レガシー

遺産の意。レガシーは近年国際オリンピック委員会（IOC）が最も力を入れているテーマの一つであり、IOCの憲法ともいえるオリンピック憲章には次のように記されている。

「オリンピック競技大会のよい遺産（レガシー）を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進する」（第1章「オリンピック・ムーブメントとその活動」第2項「IOCの使命と役割」）。

【出典・参考】

大辞林第三版[三省堂]

広辞苑第六版[岩波書店]

2016 現代用語の基礎知識[自由国民社]

日本アンブレティサッカー協会ホームページ

JOC ホームページ

三菱総合研究所ホームページ

Tokyo2020 事前トレーニング（キャンプ）候補地ガイド掲載応募要領[公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会]

日本デフバレーボール協会ホームページ

観光庁ホームページ

かわさきパラムーブメント推進ビジョン

平成28(2016)年3月

総合企画局都市経営部企画調整課

TEL 044(200)0564

FAX 044(200)0401

E-mail 20kityo@city.kawasaki.jp

「かわさきパラムーブメント推進ビジョン案」に関する 意見募集の実施結果について

1 概要

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、東京大会に向けた本市の取組の方向性や目指すべきレガシーを明らかにし市民の皆様と共有するとともに、取組を計画的に進めていくため、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン案」を取りまとめ、市民の皆様からの御意見を募集しました。

その結果、15通41件の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方、及び御意見を踏まえて作成した『かわさきパラムーブメント推進ビジョン』を合わせて公表します。

2 意見募集の概要

- ・意見の募集期間 平成28年2月16日（火）から3月16日（水）まで
- ・意見の提出方法 FAX、郵送、持参 インターネット（フォームメール）
- ・募集の周知方法 市政だより、市ホームページ、かわさき情報プラザ
各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、市民館・図書館
総合企画局企画調整課

3 結果の概要

意見提出数（意見件数）		15通（41件）
内訳	インターネット・電子メール	15通（41件）
	FAX	0通（0件）
	郵送	0通（0件）
	持参	0通（0件）

4 パブリックコメント意見の内容と対応

「かわさきパラムーブメント推進ビジョン案」の内容に対する御意見として、障害者スポーツ施設のあり方や普及促進に関する意見のほか、東京大会を契機とした魅力あるまちづくりに向けた提案など、御意見の趣旨が案に沿ったもののほか、今後の施策・事業の推進にあたり参考としていく御意見等が寄せられました。

そのため、御提案等を一部に反映し、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」をとりまとめました。

【意見に対する対応区分】

- A：御意見を踏まえ、当初案に反映したもの
- B：御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの
- C：今後の取組を進めていく上で参考とするもの
- D：案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの
- E：その他

【意見の件数と対応区分】

項 目	A	B	C	D	E	計
(1) 推進ビジョン全般に関すること		1				1
(2) 東京 2020 大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方に関すること				1		1
(3) 第 1 期推進期間の取組に関する こと	4	10	16	3		33
(4) かわさきパラムーブメント推進 フォーラムの取組に関すること		4		1		5
(5) その他					1	1
合 計	4	15	16	5	1	41

(1) 推進ビジョン全般に関すること

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	「かわさきパラムーブメント」の5つの方向性はとても良いと思う。どのようにして市民の理解や関心を得るかが課題である。	「かわさきパラムーブメント」を「ムーブメント（運動）」として全市的に展開していくためには、目指す方向性を市民の皆さんと共有していくことが非常に重要であると考えています。 今後、本推進ビジョンのPRも含め、積極的な広報活動や市民参加の仕掛けづくりを進めてまいります。	B

(2) 東京 2020 大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方に関すること

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
2	「かわさきパラムーブメント」推進の前段として、共生社会の実現に向けて誰もが安心・安全に暮らせる環境を整えることが先ではないか。	「かわさきパラムーブメント」は東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目指しています。 障害のある人や高齢者、社会的マイノリティとされる方々など、誰もが住み続けたいまちづくり、共生社会への実現に向けて、川崎市総合計画や分野別計画とも整合を図りながら、さまざまな取組を「ムーブメント」として展開してまいります。	D

(3) 第1期推進期間の取組に関すること

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
3	(1) ひとづくり 従来から各区の区民祭や福祉フェア等で各障害者団体が実施してきた取組を把握し、それらの団体の援助を考えてほしい。	「かわさきパラムーブメント」の推進にあたっては、これまでに市内で活動してきたさまざまな分野の団体が互いに連携を深め、誰もが暮らしやすいまちづくりに向けてその取組をさらに充実させていく環境づくりが重要であると考えております。 本推進ビジョンにおける「かわさきパラムーブメント」の5つの方向性の展開にあたっては、これまでに活動を進めてきた団体や関係機関等と連携、協働しながら取組を進めてまいります。	B
4	(1) ひとづくり 「障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントの実施」について、事前申し込みの必要なイ	本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(1)ひとづくり②心のバリアフリーの推進「障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントの実施」の推進にあたっては、多くの人が気	C

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
	<p>ベント・大会は参加がしにくい。 また、昨年、川崎国際多摩川マラソンに出場したがエレベーターの場所やユニバーサルトイレの場所の案内が適切ではなく、たらい回しにされた。「ひとづくり」は大きな課題である。</p>	<p>軽に参加することができるよう、申込み方法等を工夫するとともに、スタッフの事前研修の実施など、イベントを支える「ひとづくり」の取組も進めてまいります。</p>	
5	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 障害者スポーツに対する本推進ビジョンの姿勢として、「パラアスリート」という表現に端的に示されているが、トップアスリート養成、支援のための環境整備に重点がおかれているように思う。しかし、障害者スポーツの種目にはサウンドテーブルテニスなど、パラリンピックの種目ではないが長年障害者の特性に配慮し工夫されたスポーツとして市民に親しまれて実績のあるものが多い。地域の市民レベルではこれらのスポーツの普及こそが未来へのレガシーとして相応しいものであり、一般市民・一般障害者の立場の観点の本推進ビジョンには不足していると思う。</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2) スポーツ振興・健康づくりで掲げる3つのレガシーを形成していくためには、障害者スポーツを「競技スポーツ」と「身近に親しむことのできるスポーツ」の両面から捉え、取組を進めていくことが重要と考えております。</p> <p>具体的な取組といたしまして、市障害者スポーツ協会による障害者スポーツの普及や、障害のある人も参加できるスポーツ広場の開催等を計画しており、本ビジョンにも位置付けているところでございますが、いただいた御意見を踏まえ、これらの取組の推進にあたりましては、フライングディスクやサウンドテーブルテニス等、長年市民の皆さまに親しまれてきた種目を取り入れることにより、普及が図られるよう努めてまいります。</p>	C
6	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 川崎市には横浜市や東京都のような障害者専用スポーツ施設が無い。横浜市のように一か所しかないのも不便であり、身近にあることが望ましい。多額の建設コストをかけずに意味のあるレガシーを残すために、各区のスポーツセンターの指定管理業務に障害者スポーツに関する恒常的取り組み、指導員配置、用具貸出等を位置付けることを提案したい。 (同趣旨ほか1件)</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2) スポーツ振興・健康づくりに記載の通り、障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりは、「かわさきパラムーブメント」を推進する上で重要なものと位置付けているところでございます。</p> <p>各区のスポーツセンターでは、指定管理業務として障害のある人もスポーツに親しむことができる環境づくりを進めており、指定管理者が実施する業務上の留意点として、障害者・高齢者等の利用に際して十分な配慮を行うこととしております。</p> <p>いただいた御意見を踏まえ、市民に身近なスポーツ施設であるスポーツセンターにおける、障害者スポーツの普及促進の方向性を示すため、本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2)「スポーツ振興・健康づくり」①障害者ス</p>	A

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
		<p>ポーツの推進の具体的な取組項目として、「各区スポーツセンターにおける障害者スポーツの取組の推進」を追記します。</p>	
7	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 各区にあるスポーツセンターを障害者が優先的に使用できるようにしてほしい。</p>	<p>各区スポーツセンターの団体利用に関しましては、ふれあいネットによる予約が原則となっており、現在のところ障害者等の優先予約については制度化を行っておりません。</p> <p>しかし、指定管理者が実施する業務上の留意点として、障害者・高齢者等の利用に際して十分な配慮を行うこととしておりますので、スポーツセンターにおいて、誰もが日常的にスポーツに親しむことができる環境づくりに向けて、取組を進めてまいります。</p>	D
8	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 「かわさきパラムーブメント」を推進するには、障害者専用のスポーツ施設を早急に作るべきである。</p> <p>(同趣旨ほか2件)</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2)「スポーツ振興・健康づくり」に記載の通り、障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりは「かわさきパラムーブメント」を推進する上で重要なものと位置付けているところでございます。いただいた御意見も参考にしながら、障害のある人が身近な地域で利用できるスポーツ施設の整備のあり方について、引き続き検討を進めてまいります。</p>	C
9	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 東京都多摩障害者スポーツセンターや横浜ラポールなどの施設に比べると、「等々力陸上競技場に障害者優先利用日を設定」する程度では、障害者スポーツの拠点づくりに向けた取組としては弱いと思う。優先利用日を設定するだけで、障害者スポーツの拠点になると考えた根拠と等々力陸上競技場に限定している理由を知りたい。</p>	<p>障害者スポーツ専用の公の施設が無い現状におきましては、障害者スポーツの拠点づくりに向けた既存施設を活用した取組は、手法の一つとして有効であると考えております。</p> <p>また、等々力陸上競技場や各区スポーツセンター等の施設につきましては、利用率が高く、団体利用の予約が取りにくい状況もございますので、等々力陸上競技場について障害者団体の優先利用日を設定したところでございます。今後も等々力陸上競技場プロジェクトの実施状況や一般利用者等とのバランスを考慮しながら、他の施設における同様の取組の展開について検討を進めてまいります。</p>	D
10	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 「民間施設を活用したパラアスリートへの練習場所の提供」について練習場所の確保はどの競技の選手にも大きな課題になっている。パラアスリートだけではなく、それを目指す選手にも練習場</p>	<p>障害者スポーツを日常的に実施することができるよう、これまでも民間スポーツクラブのほか様々な企業や学校のスポーツ施設の活用の御協力をいただいていたところであり、今後も障害者スポーツ活動の拠点の充実化に向けた、民間施設との連携は欠かせなく、その対象者はトップアスリートに限定するものではないと考えます。</p>	A

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
11	<p>所を提供してほしい。</p> <p>(2) スポーツ振興・健康づくり 民間スポーツクラブ等との協定の締結は、トップアスリートのためにとどまらず、広く市民の利用できる社会資源としての活用を考えてビジョンとして提示してほしい。</p>	<p>いただいた御意見も踏まえ、その方向性を本ビジョンで示すため、推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2)「スポーツ振興・健康づくり」①障害者スポーツの推進の具体的な取組「民間施設を活用したパラアスリートへの練習場所の提供」について、「障害者スポーツの環境づくりに向けた民間企業等との連携の推進」と修正いたします。</p>	
12	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 川崎市障害者スポーツ協会の活動に期待している。川崎市にはパラリンピックに無い競技にも日本トップクラスの選手がいる。そのような競技についても普及促進を図ってほしい。</p>	<p>市障害者スポーツ協会の活動は障害者のスポーツ・レクリエーション等の活動を通じた、障害者スポーツの普及や障害のある人の健康づくりや社会参加の推進を目的としています。パラリンピック競技に限定せず、障害のある人を主体としたスポーツ活動全般について普及促進を図ってまいります。</p>	B
13	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 川崎市障害者スポーツ協会が創設され、今後の活動が期待されるが、障害のある人に伝わり、「行きたい」「参加したい」と思ってもらえるような情報発信や例えばラゾーナ川崎など多くの人が集まる場所でのパラスポーツのイベント開催を行ってほしい。</p>	<p>障害者スポーツに関する情報発信は、市障害者スポーツ協会の活動の柱にも位置付けられているところでございます。さまざまな媒体を活用しながら当事者の立場に立った効果的な情報発信が行えるよう、本市としても側面的な支援を行うとともに、市障害者スポーツ協会をはじめとした関係団体との連携により、多くの人が集まる場所やイベントの場を活用した障害者スポーツ普及の取組を進めてまいります。</p>	B
14	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 川崎市内で行われるスポーツ大会やイベント等に、パラスポーツのコーナーを設置し、パラアスリートやパラアスリートを目指す選手のエントリーを可能にした上で、そこでの記録を公式記録(参考記録)として認める取組を提案したい。</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2)「スポーツ振興・健康づくり」①障害者スポーツの推進に記載の通り、等々力陸上競技場で開催する国際陸上競技大会「セイコーゴールドングランプリ陸上」では、競技種目の中にパラアスリートのエントリーを行っています。今後も健全者と障害者が同一の大会に出場できる取組を進めるとともに、多くの市民が集うイベント等におけるパラスポーツの体験企画を盛り込むこと等により、パラスポーツの認知度向上やスポーツを通じたインクルージョンを促進してまいります。</p>	B
15	<p>(2) スポーツ振興・健康づくり 障害当事者がスポーツに限らず、イベントに参加するためには、視覚障害者に対応した拡大、点字資料の確保、聴覚障害者に対する手話通訳の保障、肢体不自由者に対する移動のサポートなど、</p>	<p>本市では、障害のあるなしに関わらず誰もが安心・安全に暮らし、社会参加ができるよう、障害の特性に応じた情報提供など、情報バリアフリーの推進に取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、市主催のイベント等においては、手話通訳者、要約筆記者によるコミュニケーションサポートにも努めており、これらの取組をさらに浸透</p>	B

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
	参加のための条件整備を進める必要がある。	させるとともに、市職員の意識改革に向けた研修等を行うことにより、イベントや会議等において、障害のある人や高齢者が参加しやすい工夫や配慮を行えるよう取組を進めてまいります。	
16	(2) スポーツ振興・健康づくり 初級障がい者スポーツ指導員を取得しても使わない方が多いのが現状である。また、情報も入っていない。障害者スポーツと関わる機会があまり無いのではないかと。	障がい者スポーツ指導員の資格取得を条件として、川崎市障がい者スポーツ指導者協議会に所属していただきますと、同協議会から本市で行われる障害者スポーツ大会や球技大会、スポーツ教室等のイベント情報が会員向けに提供されます。また、本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(1)「ひとづくり」②ボランティア活動の推進にある記載のように、多摩川ランフェスタ等の市主催の定期的なスポーツイベントにおいて障がい者スポーツ指導員をはじめとするボランティアを募集するとともに、ボランティアの育成や関心を高める取組を進めてまいります。	C
17	(2) スポーツ振興・健康づくり 「市民参加のスポーツイベントの開催」についてこれらのイベントにも障害者が気軽に参加できるようにしてほしい。	それぞれの地域で開催されるスポーツイベントを障害のある人にとって参加しやすいものとしていくためには、障害の理解と心のバリアフリーの推進が重要であると考えます。 本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(1)「ひとづくり」においても②心のバリアフリーの推進を柱の一つに位置付けています。障害のあるなしに関わらず参加できるスポーツイベントの実施をはじめ、一人ひとりが違いを認め合い活かし合う体験をモデル的な取組を通じて積み重ねながら、各地域の取組にも波及させていけるよう取組を進めてまいります	B
18	(2) スポーツ振興・健康づくり 2017年にオープンするスポーツ・文化総合センターにおいても、障害者スポーツへの配慮をしてほしい。	本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(2)「スポーツ振興・健康づくり」②スポーツによる体力向上や健康づくりに記載の通り、本施設の開館を契機にスポーツ推進を図ることとしており、障害者スポーツにも対応できるようユニバーサルデザインに配慮した計画となっております。	C
19	(3) まちづくり 案内表示における音声案内、歩道の誘導用ブロックの敷設に際しての横断歩道のエスコートゾーンや交差点の音声信号機の設置等に留意していただくとともに、バリアフリーのハード整備に関しては	本市では少子高齢化・国際化を見据え、多言語にも対応した案内表示の充実を図ることとしております。音声案内については、障害者等のニーズや騒音等地域の実情を勘案し、導入を行っているところでございます。 本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(3)「まちづくり」③バリアフリー化の推進	C

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
	<p>障害者の意見を聞いて実施してほしい。</p> <p>(同趣旨ほか1件)</p>	<p>に記載のとおり、バリアフリー化基本構想に基づき、駅・道路などのバリアフリー化を推進してまいります。整備にあたりましては市民の皆さまからの御意見も幅広く伺いながら取組を進めてまいります。</p>	
20	<p>(3) まちづくり</p> <p>レストランの点字メニューの普及や一般化など、障害のある人に配慮した案内をソフト面の工夫により促進する取組が必要である。</p>	<p>本推進ビジョン4「かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組」(2) プロジェクトづくりに向けた取組に記載のプロジェクト①アクセシブルシティかわさきでは、障害者の視点から外食等に関する情報を収集・発信するほか、障害者差別解消法への対応に関する事業者向けセミナー等も開催していく予定です。いただいた御意見も踏まえながら、障害のある人に配慮したサービスが広く社会に浸透していくよう、取組を進めてまいります。</p>	B
21	<p>(3) まちづくり</p> <p>駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進については、まずはIPC（国際パラリンピック委員会）の基準を参考にし、当事者からの声を必ず聞いてほしい。</p>	<p>本市におきましては、本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(3)「まちづくり」③バリアフリー化の推進に記載のとおり、駅・道路などのバリアフリー化を推進してまいります。大会組織委員会等のガイドラインについても参考にするとともに、当事者団体等の意見を伺いながら取組を進めてまいります。</p>	C
22	<p>(3) まちづくり</p> <p>武蔵小杉駅周辺は運動施設も集中しており、川崎駅に準じてバリアフリー化に向けた具体的な計画を出す必要がある。</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(3)「まちづくり」に記載の通り、小杉駅周辺地区につきましては、2017年度にバリアフリー法に基づくバリアフリー基本構想を改定し、さらなるバリアフリー化に取組んで参ります。</p>	B
23	<p>(3) まちづくり</p> <p>横須賀線武蔵小杉駅は駅施設が乗降客数の割に狭く、エレベータの乗り換えも多い等構造的な課題がある。こうした欠点を改良することも必要である。</p>	<p>横須賀線武蔵小杉駅施設の改良につきましては、利用者のさらなる利便性や安全性の向上に向け、引き続き鉄道事業者と連携した取組を進めてまいります。</p>	C
24	<p>(3) まちづくり</p> <p>障害者差別解消法も踏まえ、各区のスポーツ施設において、施設のバリアフリーにとどまらず、利用料や施設へのアクセス、利用環境を含めて障害者スポーツがバリアフリーに行えるような環境整備を進めてほしい。(同趣旨ほか2件)</p>	<p>スポーツ施設のバリアフリー化を進めるにあたっては、施設までのアクセスを含めソフト・ハードの両面から障害のある人の利用に配慮した取組を進めていくことが重要と考えています。</p> <p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(3)「まちづくり」③バリアフリー化の推進に記載の通り、スポーツ施設のバリアフリー化を2016年度以降順次進めてまいります。施設へのアクセシビリティの向上も含めまして、障害</p>	C

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
		<p>のある人にとって地域のスポーツ施設が利用しやすいものとなるよう、いただいた御意見も踏まえながら検討を進めてまいります。</p>	
25	<p>(4) 都市の魅力向上 川崎大師は外国人観光客が訪れるポテンシャルがあり、2028年には建立900年の大きな節目を迎える。しかし、空港からの近さの割には乗換が必要であることや、参道や駅周辺の景観にも課題がある。空港に近いという立地の良さを活かし、羽田空港国際線ターミナルと川崎大師、川崎駅を結ぶバスの試験運行や川崎大師周辺の景観条例の制定、参道の整備などを行い、多くの外国人が訪れる魅力あるまちづくりを進めてほしい。</p>	<p>本市には歴史、文化、産業など多彩な地域資源がありますが、中でも川崎大師は知名度や羽田空港に近接した優位な立地から、東京大会を契機とした観光客数の増加が期待できます。</p> <p>今後は初詣で賑わう1月以外にも来訪者が楽しむことができるよう、風鈴市をはじめとした様々な行事の情報発信を行うとともに、訪日外国人の興味関心をひく寺社の伝統・伝承等に着目した取組や、産業観光や市内のホテル等と連携した取組により、通年型・滞在型のまちの魅力づくりを進めてまいります。</p>	B
26	<p>(4) 都市の魅力向上 海外先進国では飲食店では喫煙できない国がほとんどである。川崎の魅力の世界にアピールするためには、オリンピック・パラリンピックを機に市内飲食店の禁煙対策（せめて分煙対策）を強く推進することが必要である。</p>	<p>本市では、健康増進法及び神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例に基づき、飲食店を含む公共的施設等における分煙対策や健康被害に関する普及啓発などに取り組んできたところでございます。</p> <p>今後は、東京オリンピック・パラリンピックに向けた国や東京都等の動向などを注視するとともに、喫煙者、非喫煙者がお互いの立場に配慮しながら快適に暮らせることを基本に、受動喫煙防止の取り組みを進めてまいります。</p>	C
27	<p>(4) 都市の魅力向上 川崎市の内陸部から羽田空港まで短時間でスムーズにアクセスできる交通体系を構築し、市内の拠点や観光施設間の回遊性を向上させる交通ネットワークを形成することが重要である。</p>	<p>本推進ビジョン3「第1期推進期間の主な取組」(3) まちづくりに記載の通り、羽田連絡道路の整備等を契機に交通ネットワークの充実を図るとともに、駅周辺のバリアフリー化、多言語化に配慮した案内表示の充実など、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めてまいります。</p>	C
28	<p>(4) 都市の魅力向上 2017年度に川崎駅北口に開設される魅力発信施設については、東京大会後も見据えて、「JNTO（日本政府観光局）認定外国人観光案内所」の認定区分「カテゴリー3」を目指してほしい。</p>	<p>東京2020大会を契機とした本市の魅力発信に向け、新たに川崎駅北口に開設予定の魅力発信施設は重要な役割を果たすと考えています。</p> <p>英語で対応可能なスタッフの配置等、多言語対応による情報発信やサービスの提供、Wi-Fi環境の整備等を進め、本市を訪れる人のおもてなしのための取組を進めてまいります。</p>	C

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
	<p>※「カテゴリー3」主な認定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供時間中は、英語、中国語、韓国語で対応可能なスタッフが常駐している。 ・全国の公共交通利用や観光情報などを提供できる。 		
29	<p>(4) 都市の魅力向上</p> <p>旅行博でのブース出展の際には、埋没しないような工夫やアイデアが必要である。ドラえもんを全面に押し出したブースづくりや、キャッチフレーズとして「KAWAII! KAWASAKI」キャンペーンの展開等を提案したい。</p>	<p>旅行博等への出展にあたっては、本市の魅力を実効果的に発信するための工夫や戦略が求められると考えています。市観光協会等関係団体との連携等も図りながら、今後も川崎の多彩な魅力を発信する効果的なセールスを展開してまいります。</p>	B

(4) かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組に関すること

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
30	<p>「かわさきパラムーブメント」を継続的で全市的なムーブメントとしていくためには、もっと地元を巻き込んでいく必要がある。</p>	<p>「かわさきパラムーブメント」の推進に向けましては、本推進ビジョン4「かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組」に記載の通り、「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」を継続的に開催することにより、市民、団体、企業等さまざまな主体の連携・協働の場としていく考えです。また、「かわさきパラムーブメント」の実践につながるプロジェクトづくりにあたっては、推進フォーラム委員はもとより、幅広い市民や団体の参加・協力を得ながら取組を進め、全市的な「ムーブメント」としての展開を図ってまいります。</p>	B
31	<p>行政側に「かわさきパラムーブメント」を推進する「オール川崎」の体制づくりがなされていないように思える。</p>	<p>「かわさきパラムーブメント」の推進に向けた庁内体制として、2014年1月に市長を本部長とする「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」を設置し、庁内の横断的な連携体制を整えたところでございます。2015年10月には外部連携組織として「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」を設置し、両組織の連携のもと、幅広い分野において行政の取組、さらには市民協働の取組を推進し</p>	D

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
		ていくものとしております。	
32	「アクセシブルシティかわさき」について、当事者からの意見や日々の生活の中から情報が得られると思うので、SNS等を活用して情報交換や情報発信をするのが良いと思う。	<p>本プロジェクトは、障害のある人が外食や観光などを楽しむために必要な情報を得ることができる環境づくりを進めるもので、当事者の視点で情報を収集・発信していくことが重要であると考えております。</p> <p>プロジェクトの実施にあたっては、車いすユーザー等障害のある人が現地調査を行うほか、SNSの活用など、当事者の「声を集め」「情報を届ける」ための効果的な手法を用いて取組を推進してまいります。</p>	B
33	「パラスポーツやってみるキャラバン」について、市内の学校において「パラスポーツ」を知り、体験する機会を提供することは良いことだと思う。パラリンピアンだけではなく、パラスポーツを継続してきたアスリートや、パラリンピックを目指しているアスリートにも協力してもらいながら実施してほしい。	<p>本プロジェクトの実施にあたっては、本市ゆかりのパラアスリートをはじめ、パラスポーツに携わるさまざまな立場の人や団体の協力を得ながら取組を推進してまいります。</p>	B
34	「宿泊施設のバリアフリー化促進プロジェクト」について、一人ひとり障害は違うので、完全なバリアフリーにしなくても、簡易スロープや引き戸の設置で改良可能なケースがある。また、宿泊施設の従業員の知識が足りないことにより、障害のある人の宿泊について問い合わせた時点で断られることもある。これらの視点を踏まえて取組を進めてほしい。	<p>宿泊施設のバリアフリー化を進めるにあたっては、建物のバリアフリー化とともに、一人ひとり異なる障害を持つ宿泊客にきめ細かく応接するための知識やスキルが重要と考えています。</p> <p>本プロジェクトにおいては、当事者の視点に立った施設やサービスに対するニーズを把握するとともに、事業者によるハード・ソフト両面からのバリアフリー化を促す取組を展開してまいります。</p>	B

(5) その他

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
35	<p>パブリックコメントの存在がそもそもあまり知られていない。また、パソコンが無ければ本ビジョン案を閲覧するためには、わざわざ役所まで出かけなくてはならない。市民意見募集の方法として、無作為で調査会社に依頼した方がきちんとしたデータが取れると思う。</p>	<p>パブリックコメント制度は、市民の市政への参加を推進するとともに、行政運営の透明性の向上を図り、市民自治の確立とより開かれた市政の実現に資することを目的として、「川崎市パブリックコメント手続条例」に基づき実施しています。市ホームページのほか、情報プラザ、各区役所のほか、市民館、図書館等の市内公共施設で資料をご覧いただくことができます。「かわさきパラメータメント」の推進に向けて、広く市民の意見を聴取することは大変重要と考えておりますので、今後もさまざまな手法により市民の皆さまの御意見を伺う取組を進めてまいります。</p>	E